

読解力と作文力の相互関連性に関する統計的分析

背景と目的) 言語教育に関わるものであれば、誰もが言語知識と言語運用力の関連に強い関心を持つが、両者の相互関係に対する実証的研究は多くない。こうした現状を受け、本研究では学習者コーパス「I-JAS」を利用し、読解力と作文力の関連を統計的な方法で調査分析し、言語知識としての読解力と文章の運用力としての作文力にどの程度の関連があるかを明らかにする。

データと方法) 分析データとして、I-JASの560件の作文とJ-CAT (www.j-cat.org/) の得点情報を使った。読解力と作文力の関連を明らかにするため、2つの数値データを用いる。読解力に関する数値データとしてはI-JASに含まれるJ-CATの読解領域の得点情報を使った(図1)。作文力に関する数値データとしては、李・長谷部・迫田(2017)が開発した重回帰分析による作文評価指標¹を用いた(図2)。図1,2によるJ-CATのレベル(1は初級~6は上級)があがるにつれ、読解の得点と作文評価指標値があがっていく実態が確認できる。本研究では図1、2のデータに対して相関分析を行った。

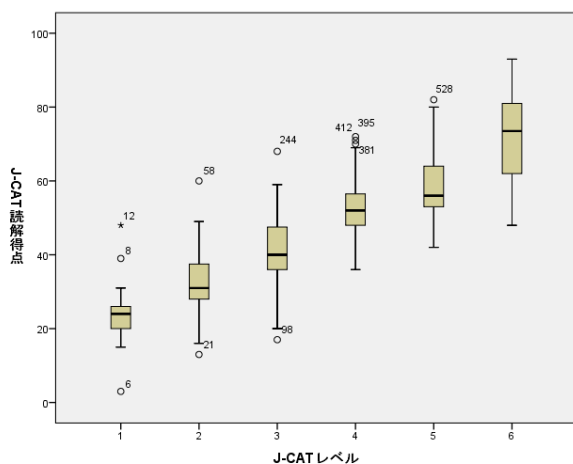


図1. J-CATのレベル別の読解得点の箱ひげ図

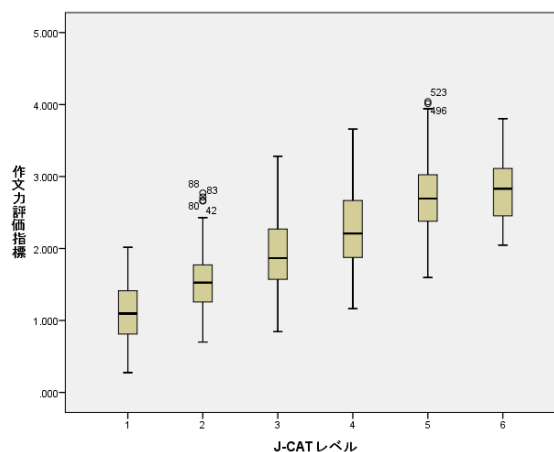


図2. J-CATのレベル別の作文評価指標の箱ひげ図

結果と考察) ピアソンの積率相関係数による分析の結果、読解力と作文力には、中程度の相関が見られた($r = .529, p < .001$)。なお、文法テストの得点とは、 $r = .539$ 、聴解テストの得点とは、 $r = .546$ 、語彙テストの得点とは、 $r = .601$ となり、読解テストだけが際立って相関が高いわけではないことも明らかになった。さらに、読解力と作文に見られるテキスト特徴量との相関も調べてみたが、いずれの変量も0.3前後の低い相関しか確認できず、結論的には、作文力と読解力に際立って密接な関連があることを示す証拠は見つからなかった。

¹ 「作文力評価値 = 1.637 + 平均語数 × 0.045 + 中級後半語 × 0.021 + タイプ・トークン比 × -0.430 + 動詞 × 0.015 + 中級前半語 × 0.011 + 総文字数 × -0.004 + 和語 × 0.007 + 漢語 × 0.007 ($R^2 = 0.760$)」